

事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年3月3日

事業所名 かるがも園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		・利用者が多い時には部屋を分けたりしてスペースを確保しています。 ・人数や活動に応じて部屋を分けて活動を行っています。	・トイレの数に限りがあるので、使用法の工夫が必要となります。
	②	職員の配置数は適切である	○		・基準以上の配置をしています。当日の児童数に応じて必要な配置と一人ひとりに対応出来る配慮をしております。	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		・座る場所や待つ場所をマットなどを用いて視覚的に示しています。	・外遊びの際に靴を持ち運びをするため、動線及び、環境整備を考えていく必要があります。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		・朝、環境チェックや使用後の点検を行っています。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		・業務改善のための情報共有・振り返りを職員間で協議、検討を重ねています。	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		・保護者からの意見を元に配慮などの周知を行い、できるだけすぐに対応を行っています。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人のHPにて情報の公開をしています。	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				・第三者評価機関は現在利用をしていません。今後、利用を検討していくことが課題となります。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		・コロナ禍のため、オンライン研修に参加しました。	・今後、その職員像に合わせた研修への参加を視野に入れて機会を増やしていくことや階層別などの研修も必要となります。
適切	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発	○		アセスメントシート・フェイスシートを用いて	

	達支援計画を作成している			客観的に分析し、職員間で共有した上で計画を作成しています。	
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		・標準化されている検査表を用いてアセスメントを行っています。	
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		津島市の事業所間で作成した計画表を使用して一人ひとりに合わせて具体的な支援内容を設定しております。	
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		朝の打ち合わせで支援計画に沿った支援について職員間で共有した上で支援を行っています。	・現在、継続しているツールを活用して全体に周知、引継ぎができるようにいたします。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		・会議で一人ひとりの様子を職員間ですり合わせたくえで児童の段階に沿ったプログラムを立案しております。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		・職員間で話し合い、検討した上、児童に合わせたプログラムになるよう、個々に応じた目的・目標をさだめて活動できるようにしております。	・児童の様子に合わせたプログラムに対して個々に応じた目的・目標を日々の様子から確認し、その情報を職員間で共有していくことが課題となります。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		・個別療法での様子と集団での様子をすり合わせ、計画を作成しています。	・療法などの情報を支援計画に反映して、専門的な立場からの意見などを活かしていきます。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		・支援開始前に打ち合わせ用紙にその日の活動予定、子供の様子を記入し、その上で職員間で話し合いをしています。予測されることを想定しながら、職員の役割分担を決めています。状況により、臨機応変に役割を交代しながら行えるように打ち合わせをして	・支援が終わって、日々の振り返りの中で、児童の様子や状況により、支援の内容を検討をしています。検討した内容から、次の支援に活かすための話し合いの時間の確保が課題となります。支援開始前の打ち合わせをする中では、よりよい支援のために支援内容や役割分担の急な変更があることは致し方ないことですが、安心できる活動や生活のために計画性のある事前準備をすることが目標となります。

				います。	
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		・毎日職員間で振り返りを行っています。支援の検証・改善を日々行い、職員間で共有しています。	・日々のアセスメントにより、段階に沿った活動や生活習慣の取り組みを次回の支援に活かす振り返りにポイントを絞って振り返り時間の管理をして生産性のある振り返りをするのが目標です。また、その日に出勤していない職員と情報を共有していくことが課題となります。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		・個人記録及び日誌の記録を毎日行っています。その日の反省を次に生かせるようにしています。	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		・定期的にモニタリングを行い見直しを行っています。	・その時間の確保をするための工夫を検討いたします。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		・園長・主任始めその都度、最もふさわしいものが参加しております。	
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		子どもとその家族に対して健康推進課母子保健の保健師や子育て支援課、学校教育課、医療機関との連携や情報共有を常に行っています。	・より質的な向上を目指し、また青い鳥医療療育センターによる療育支援事業の場や、連携機関会議に出向き、津島市の連携支援体制の中で、質的な連携をより図れるように努力いたします。
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・必ず懇談を行い、津島市協議会作成による連携支援ブック「成長の記録」を活用して、情報の共有・相互理解を図っています。	
㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		・個人情報同意書に基づいて情報共有を行い、相互理解を図っています。	・情報共有についての承諾を再確認する必要があります。
㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事	○		・青い鳥医療療育セ	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携

	業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている			ンターによる、愛知県療育支援事業を年4回受けています。	
⑳	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		・今後、保護者からの要望があれば検討をしていきます。
㉑	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		・津島市の総合支援会議、発達支援部会のメンバーとして参加しています。	
㉒	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		・保護者の方と子どもの状況について話しながら確認・共通理解を図っています。	
㉓	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		・作業療法士・言語聴覚士・公認心理師による保護者のグループワークを行っています。	
㉔	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		・入園(契約時)に行っています。利用者負担については発生した都度説明を行っています。	
㉕	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		・保護者からの丁寧な聞き取りの上、ガイドラインに基づいた計画を立て、読み合わせをしながら丁寧な説明を心がけています。	
㉖	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		・園長面談や担当職員の聞き取りの時間を定期的に設定しています。また状況に応じて随時面談も行っています。	
㉗	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		・父母の会とファミリー交流会を開催しています。	父母の会においては保護者の皆様に運営していただけるようにバックアップしていきます。
㉘	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		・いつでも相談ができるよう体制を整えております。	
㉙	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		・園だよりを発行し、行事の目的や予定を記載し、説明しながらお渡ししています。	
㉚	個人情報の取扱いに十分注意している	○		・必要に応じて個人が特定されないように配	

				慮をしています。書類等は厳重な保管をしています。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	・実物やイラストカードなどを使用したり、マーカーなどをで分かりやすくしています。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	・今年はコロナで外部ではなく、内部のみで行いました。	
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	・各マニュアルを作成し、それに基づいた訓練を行っています。法人で情報共有しながら事業所で業務継続計画(BCP)を作成して対応しています。	・今後はマニュアルや業務継続計画(BCP)を状況に合わせて、都度見直しをし、内容を更新していきます。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	・月に1度火災、地震、不審者のいずれの訓練を行っています。	
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	緊急対応マニュアルの中に服薬病歴等の情報も収集し、厳重に管理しています。	
	④⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		・現在該当する児童はいません。	・今後、該当する場合には医師の指示に従って対応していきます。
	④⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	法人内で統一した書式を使い、日々の振り返りの中でその場面を振り返り、今後の対応を職員間で検討しています。	・共有の仕方の検討と次に生かしていくための周知が検討課題となります。
	④⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	・法人内の研修だけでなく、外部の研修にも参加しています。	・今後もチェックリストを使用しながら日々事業所内でも確認していきます。
	④⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		・身体拘束を行った例はありません。	・今後、行動制限をしなくてもよいように支援の手立てや方法の検討が必要となります。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。